

- 問1 東南アジアや南アジアで見られる季節風（モンスーン）について、夏季における風の向きと、それが地域の気候に与える影響を正しく説明したものはどれですか。（2024年 群馬県公立入試 類似）
- | | | | |
|---|--|--|--|
| 1. 中緯度地帯の上空を一年中西から東に向かって吹き、天気を西から東へと周期的に変化させる | 2. 陸から海に向かって吹き、乾燥した空気を運ぶため、雨の少ない乾季の原因となる | 3. 海から陸に向かって吹き、湿った空気を運ぶため、多くの降水をもたらす雨季の原因となる | 4. 北極や南極などの高緯度地域から赤道に向かって吹き、年間を通じて地域の気温を大幅に低下させる |
|---|--|--|--|
- 問2 アジア大陸の南部に位置し、インドの北側に東西にわたって連なる世界最高峰の山脈について、その特徴を正しく説明しているものはどれですか。（2020年 鹿児島県公立入試 類似）
- | | | | |
|--|---|---|---------------------------------------|
| 1. 標高8000mを超える山々が連なり、世界の屋根とも称されるヒマラヤ山脈である。 | 2. ヨーロッパ大陸の南部に位置し、登山や観光地として知られるアルプス山脈である。 | 3. 南アメリカ大陸の西側に沿って南北に長く伸びる、標高6000m級のアンデス山脈である。 | 4. 北アメリカ大陸の西側を縦断する、険しい岩山が続くロッキー山脈である。 |
|--|---|---|---------------------------------------|
- 問3 2013年から2017年にかけての日系企業の拠点数に関する統計において、中国は約3万拠点と数が多いものの微増にとどまっているのに対し、ハノイ付近を拠点として約1300拠点から1800拠点超へと約4割の急成長を見せている東南アジアの国はどこですか。（2019年 神奈川県公立入試 類似）
- | | | | |
|---------|-------|-----------|-------|
| 1. ベトナム | 2. タイ | 3. インドネシア | 4. 韓国 |
|---------|-------|-----------|-------|
- 問4 1989年に設立された、アジアや太平洋を囲む21の国と地域が加盟し、この地域の経済的な結びつきを強めることを目的としている枠組みの名称を、次のうちから選びなさい。（2022年 千葉県公立入試 類似）
- | | | | |
|-----------------------|---------------|-------------------------|-----------------------|
| 1. APEC（アジア太平洋経済協力会議） | 2. AU（アフリカ連合） | 3. USMCA（米国・メキシコ・カナダ協定） | 4. MERCOSUR（南米南部共同市場） |
|-----------------------|---------------|-------------------------|-----------------------|
- 問5 中国における農業の特色について、北東部から中東部にかけての比較的降水量の少ない地域で、主食の原料として盛んに生産されている農作物を答えなさい。（2022年 和歌山県公立入試 類似）
- | | | | |
|-------|------|---------|------|
| 1. 小麦 | 2. 米 | 3. 天然ゴム | 4. 茶 |
|-------|------|---------|------|
- 問6 北側にヒマラヤ山脈がそびえ、南側のアラビア海へと注ぐ大河の流域に位置する地点で発展した文明について、その特徴を説明した記述として正しいものはどれか。（2015年 岡山県公立入試 類似）
- | | | | |
|---|--|---|---|
| 1. 巨大なピラミッドが建設され、王は神の化身として絶対的な権力を持っていた。 | 2. 灌漑農業によって強力な国家が形成され、青銅器とともに鉄器が早い段階で普及した。 | 3. 印章と呼ばれるハンコのような遺物が発見されており、独自の文字が刻まれている。 | 4. 周囲に高い山や砂漠などの障壁が少なかったため、異民族の侵入が頻繁に起こった。 |
|---|--|---|---|
- 問7 日本の輸入取引に関する統計資料において、2008年時点で魚介類および野菜・果実の輸入額がそれぞれ国内第1位であり、さらに2010年時点のアルミニウムの輸入額でも第3位となっている国はどこか、次の中から選びなさい。（2017年 沖縄県公立入試 類似）
- | | | | |
|------------|------------|-------|----------|
| 1. オーストラリア | 2. アメリカ合衆国 | 3. 中国 | 4. フィリピン |
|------------|------------|-------|----------|
- 問8 インドの産業において、デカン高原の存在は農業・工業の両面で重要な役割を果たしてきました。この高原の自然環境と産業の関係についての説明として正しいものはどれですか。（2022年 長野県公立入試 類似）
- | | | | |
|--|--|---|---|
| 1. レグールと呼ばれる肥沃な黒色の土壌が分布しており、古くから綿花の栽培が行われ、繊維工業の発展を支えた。 | 2. 焼畑農業による大規模な森林開発が進んだ結果、現在は牧草地へと転換され、世界有数の肉牛の飼育地となっている。 | 3. 標高が高く極めて乾燥しているため農耕には適さず、主にヤクや羊などの遊牧が住民の生活を支えている。 | 4. ラテライトと呼ばれる赤色の土壌が広く分布しており、高冷な気候を利用した茶のプランテーションが展開されている。 |
|--|--|---|---|
- 問9 私たちの身の回りにある洗剤やシャンプー、またラクトアイスやマーガリンといった食品には、パーム油が原材料として多く使われています。このパーム油の原料となる植物の名称として正しいものを選びなさい。（2024年 鹿児島県公立入試 類似）
- | | | | |
|-----------|----------|---------|----------|
| 1. トウモロコシ | 2. サトウキビ | 3. ココヤシ | 4. アブラヤシ |
|-----------|----------|---------|----------|
- 問10 南アジアに位置する島国で、住民の約7割が仏教を信仰しているという宗教的な特徴を持ち、産業面では繊維製品のほかに「紅茶（茶）」が主要な輸出品目となっている国はどこですか。（2022年 三重県公立入試 類似）
- | | | | |
|----------|------------|----------|----------|
| 1. パキスタン | 2. バングラデシュ | 3. スリランカ | 4. モルディブ |
|----------|------------|----------|----------|
- 問11 南アジアに位置するインドにおいて、国民の約8割が信仰しており、人々の生活習慣や文化に強い影響を与えている宗教は何ですか。（2020年 岡山県公立入試 類似）
- | | | | |
|-------|-----------|----------|----------|
| 1. 仏教 | 2. ヒンドゥー教 | 3. イスラム教 | 4. キリスト教 |
|-------|-----------|----------|----------|
- 問12 アラブ首長国連邦（UAE）では、原油の輸出に過度に依存した経済構造から脱却するための政策が進められています。近年、国内総生産（GDP）に占める割合が上昇しており、観光業や金融業などが含まれる産業分類として適切なものはどれですか。（2024年 佐賀県公立入試 類似）
- | | | | |
|----------|----------|----------|----------|
| 1. 第一次産業 | 2. 自給的農業 | 3. サービス業 | 4. 重化学工業 |
|----------|----------|----------|----------|
- 問13 南アジアの自然環境について述べた次の文のうち、ネパールとブータンの地形的・地理的な共通点として正しい記述を選びなさい。（2024年 神奈川県公立入試 類似）
- | | | | |
|---|---|---|--|
| 1. 四方を海に囲まれた島国であり、モンスーンの影響による高潮の被害を最も受けやすい。 | 2. ロシアと広大な国境を接しており、一年を通して寒冷な気候が続く広大な平原国である。 | 3. アフリカ連合（AU）に加盟しており、サハラ砂漠の南側に広がる平原地帯に位置している。 | 4. 海に面していない内陸国であり、ヒマラヤ山脈周辺の地震が発生しやすい地域に位置している。 |
|---|---|---|--|
- 問14 日本やマレーシアといった国々において、経済の発展とともに第一次産業の就業者割合が低下し、代わって第三次産業の割合が上昇していく背景として、最も適切な説明はどれですか。（2025年 山口県公立入試 類似）
- | | | | |
|--|---|---|--|
| 1. 製造業を中心とする第二次産業の就業者が、高齢化によって一斉に第一次産業へ移動するため。 | 2. 食料自給率を意図的に下げること、工業製品の輸出額を増やす国家戦略がとられるため。 | 3. 生活水準の向上や技術革新により、医療・娯楽・情報などのサービスへの需要が高まるため。 | 4. 農業の機械化が困難であることから、労働力の不足を補うために他産業への移動が禁止されるため。 |
|--|---|---|--|